

コンゴ(共)月報(2016年3月)

主な出来事

【内政】

- 4日から18日まで、大統領選挙候補者9名による選挙運動が行われた。
- 20日、7時から18時まで、国内5370か所の投票所において大統領選挙の投票が実施された。
- 24日未明、ンブル内務大臣は、大統領選挙の第一回投票結果につき発表し、1位はサス・ンゲソ大統領(60.39%)、2位はコレラ候補(15.05%)、3位はモココ候補(14%)であった。
- 26日、候補者5名は、サス・ンゲソ大統領の再選に対して平和的かつ合法的に抗議する旨共同宣言を行い、29日にゼネストを実施する旨宣言した。
- 31日、コレラ候補は、憲法裁判所に対して、大統領選挙暫定結果に関する異議申し立てを行った。

【外交】

- 25日、マーク・トナー米 국무省副報道官は声明を発出し、選挙プロセスの透明性、信用性、とりわけ通信切断に関する懸念を表明した。
- 26日、仏社会党は、不透明な選挙プロセス、通信切断、仏紙記者への暴力を非難した声明を発出した。

【社会】

- 20日夕方、大統領選挙の開票時、ブラザビル市内南部において、警察が開票目的に集結した群衆、コレラ候補の支持者に対してそれぞれ、催涙弾を発射した。
- 23日、野党候補者事務所を出た仏通信(AFP)及びル・モンド紙の記者計3名が襲われ、身ぐるみを剥がされ、所持品を奪われた。
- 29日、ブラザビル市内南部では多くの市民が野党候補者によるゼネストの呼びかけに応じたが、同市内北部はほぼ応じなかった。

◎特にソースが明記されていない場合は、「Les Dépêches de Brazzaville」、仏通信(AFP)及び仏ラジオ国際放送局(RFI)による。

【内政】

《大統領選挙》

- ・4日から18日までの2週間、大統領選挙運動が行われた。候補者9名は以下のとおり。
- デニ・サス・ンゲソ(コンゴ労働党(PCT)党首、大統領)

- ゲイ・ブリス・パルフェ・コレラ(コンゴ民主統合発展運動(MCDDI)幹事長, 元閣僚)
- ジャン＝マリ・ミシェル・モココ(無所属, 元参謀長)
- パスカル・チャティ・マビアラ(社会民主主義のための全アフリカ連合(UAPDS)第一書記, 国民議会議員)
- アンドレ・オコンビ・サリッサ(コンゴにおける民主主義のためのイニシアチブ(IDC)党首, 元閣僚)
- クロディン・ムバリ・マゾンゾ(統一・連携・労働運動(MUST)党首)
- ジョセフ・キニユンビ＝キアンブグ(無所属)
- ミシェル・ンブシ＝ングアリ(共和党協定(CPR))
- エンガンベ・アンギヨ・ンガンギア(無所属)

・5日, 経済の中心であるポワント・ノワールにて, サス・ンゲソ大統領が演説し, 第1回投票での当選を宣言し, 若者に対する就業支援を重視する旨言及した。

・9日, サス・ンゲソ大統領の選挙事務局は, 同大統領のマニフェストである次期5か年計画「発展への歩み(2016－2021年)」を発表した。同計画の内容は以下のとおり。

- 男女ともに発展への動力とする
- 経済・社会事業に重点を置く
- 包括的な経済成長及び経済改革の多様化により, 少なくとも今後10年間, 経済成長率平均は10%前後とする
- 良質の研修による若者の雇用創出
- デジタル経済化
- 制度改革

・9日, 独立選挙委員会(CNEI)は, 円滑な選挙実施のため, 国内で監視員137名を派遣し, 投票所職員3.5万人と協力していく旨発表した。

・12日, 選挙関係局は有権者リスト最新版を発表した。今次大統領選挙の有権者は212万人であり, 前回より24万人増加した。

・16日, ンブル内務大臣は, 政令にて, 投票日当日の20日は, 公共の場におけるイベント, 武器の携帯, バーやナイトクラブの営業を禁止する旨定めたと発表した。

・19日から24日まで, 「国内治安の確保」, 「反対派による偽結果の発信を回避するため」という理由から, 国内の通信回線(インターネット, 電話)が切断された。

・20日、7時から18時まで、国内5370か所の投票所において、大統領選挙の投票が実施された。同日は、交通規制が敷かれた。

・22日、独立国家選挙委員会(CNEI)は大統領選挙の第一回投票にかかる集計経過を以下のとおり発表した。

(1)投票人数:1,117,637名

(2)投票率:52.7%

(3)暫定結果

-1位 サス・ンゲソ候補(大統領)(61.4%)

-2位 コレラ候補(16.2%)

-3位 モココ候補(13.28%)

・24日未明、ンブル内務・地方分権大臣は、大統領選挙の第一回投票結果につき発表し、サス・ンゲソ大統領が再選され、新たな任期5年間を務めることになる旨述べた。

(1)投票率:65.74%

(2)暫定結果

-1位 サス・ンゲソ候補(大統領):867,179票(60.39%)

-2位 コレラ候補:216,090票(15.05%)

-3位 モココ候補:199,414票(13.89%)

・24日、サス・ンゲソ大統領は、今次選挙がうまく行われたことを祝福し、自身のマニフェストである次期5か年計画「発展への歩み(2016-2021年)」を始動させ、同計画で設定された目標達成のために努力を惜しまず、国民に奉仕していく旨述べた。また、今次選挙暫定結果に異議がある場合は、法に従い憲法裁判所に申し立てるように呼びかけた。

・29日、サス・ンゲソ大統領はブラザビル市内及び省庁を視察訪問し、国民に対して、野党候補者が呼びかけたゼネストに参加せぬよう呼びかけた。

《野党》

・7日、モココ候補は記者会見において、候補者5名(コレラ候補、モココ候補、ムバリ候補、サリッサ候補、チャティ・マビアラ候補)で協議した結果、2回目投票に進んだ者を他4名が支持していく旨発表した。

・9日、野党5党によるプラットフォーム(IDC-FROCAD)は、投票監視委員会(CTE)を設置し、独自の監視員を投票所へ派遣する旨発表した。

・23日、コレラ候補の報道官は記者会見を行い、開票時には4都市において野党候補者が最多票を獲得していたことから、24日に独立国家選挙委員会(CNEI)が発表した暫定結果は不正であり、憲法裁判所に異議を申し立てる旨発表した。

・23日、IDC-FROCAD、モココ候補及びCTEは共同記者会見において、22日付集計経過におけるサス・ンゲソ大統領の獲得票はもっと少ないはずという理由から、今次選挙における不正を指摘した。

・25日、候補者5名(コレラ候補、モココ候補、ムバリ候補、サリッサ候補、チャティ・マビアラ候補)は、サス・ンゲソ大統領の再選に平和裡に抗議するため共同署名を行い、投票結果が尊重されるまで、ゼネスト等ストライキ、平和的集会及びデモ行進等の合法的な活動を行う予定であり、29日には、第一弾となるゼネストを計画している旨宣言した。

・29日、IDC-FROCADはコミュニケを発出し、29日にゼネストに参加した市民を祝福し、近日中に正当な選挙結果を発表する旨コメントした。

・31日、コレラ候補は、憲法裁判所に対して3点(①投票日前後の通信回線切断、②投票結果の集計ミス、③数か所の地域における投票結果の無効)の異議申し立てを行った。なお、モココ候補は、24日に発表された暫定結果は官報に掲載されていないことから、憲法で定められた異議申し立て期間(5日間)は始まっていないと主張した。

【外交】

・2日から4日、ガコソ外務・協力大臣はブリュッセルを訪問し、同期間中、モゲリーニEU上級代表らと会談し、大統領選挙、とりわけ、EUが選挙監視団を派遣しない件、公平な選挙の実施等につき意見交換を行った。

・7日、仏社会党は、野党候補者の表現の自由が侵害されている旨指摘し、大統領選挙の延期を求めた。また国連、EU、AUに対して、大統領選挙が延期するよう影響力を行使するよう呼びかけた。

・7日、サス・ンゲソ大統領が党首を務めるコンゴ労働党(PCT)は、仏社会党に対し

て、今次選挙を延期する理由はない旨、当国は緊急事態になく基本的な自由の侵害もない旨コメントした。

・10日から23日の間、中部アフリカ諸国経済共同体(CEEAC)は選挙監視団をブラザビルに派遣した。

・12月から16日の間、フランコフォニー国際機関(OIF)は、カファンド・元ブルキナファソ暫定大統領率いる選挙視察団を派遣した。同期間中、カファンド団長は、サス・ンゲソ大統領及びガコソ外務・協力大臣、他の大統領候補、市民社会と会談し、すべての関係者に対して、平和的な選挙を開催するよう呼びかけた。

・16日、ディレイタ・ジブチ元首相を団長とし、約50名から構成されるAU選挙監視団がブラザビルに到着し、ガコソ外務・協力大臣に迎えられた。ディレイタ同団長は、有権者に対して投票に行くよう呼びかけ、選挙が平和裡に実施されるよう希望した。

・22日、AUは、AUが派遣した選挙監視団の評価を発表し、包括的かつ選挙的な大統領選挙が実施された旨、投票者によるボイコットもなく多くの有権者が投票した旨、平静、平和、安定した投票を確認した旨声明を出した。

・25日、マーク・トナー米国務省副報道官は、選挙プロセスの透明性、信用性、とりわけ通信切断に懸念を表明した声明を発出した。

・26日、仏社会党は、不透明な選挙プロセス、通信切断、仏紙記者への暴力を非難した声明を発出した。

【経済】

・1日、サス・ンゲソ大統領はブラザビル及びポワント・ノワールを結ぶ国道1号線の開通式に参加した。中国路桥工程有限公司(CRBC)が施工した、今次工事の区間は375キロ、総事業費は約14.3億米ドルであり、右工事によりブラザビル・ドリジ間が連結した。

・3日、ジョンボ森林経済・持続的開発大臣と中国系シコフォー社のチャン代表は、1月8日付森林委員会の決定によって同社に割り当てられた12万ヘクタールの森林区画の活用方法にかかる協定に署名した。右協定では、森林の持続的開発枠組みにおいて、今後5年間で約610万ユーロの投資が行われ、基礎社会生活事業、開発資材の導入、工業機械の習得、木材産出、製材工場及び乾燥場などが建設される予

定。

・3日, サス・ンゲソ大統領出席の下, モロッコ企業CIMAFのセメント工場の稼働式が行われた。同工場は, 50万トンの生産能力を有する。

・13日, ジルベール・オンドongo経済・財政・計画・公共資産・統合大臣による発表は以下のとおり。

-銀行数:2001年の4銀行から, 2010年には10銀行まで増加している

-銀行口座保有率:2007年の3%から, 現在13%まで増加している

・9日, スンダ・ダム改修計画に係る調査の第1フェーズの報告会が開催された。本計画は, 国際金融公社(IFC)が官民連携による投資の検討を行ったもの。

【社会】

・20日夕方, 大統領選挙の開票時, ブラザビル市内南部の投票所において, 警察が, 開票に参加する目的で集結した群衆約200名に対して催涙弾を発射した。また, 同日夕方, 警察約10名が, コレラ候補の支持者に対して催涙弾約10発を発射した。

・23日, 野党候補者の記者会見を終えた仏通信(AFP)及びル・モンド紙の記者計3名が襲われ, 1名は顔を殴られ, 3名とも身ぐるみを剥がされ所持品を奪われた。襲撃者4名は, 白の4駆車両にて乗り付け, 当初警察と名乗ったものの身分証明の提示は拒否していた。

・29日, ブラザビル市内南部では多くの市民が, 野党候補者によるゼネストの呼びかけに応じたものの, 同市内北部の市民はほぼ応じなかった。

(了)